

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	3071000453
法人名	医療法人 敬英会
事業所名	グループホーム 幸楽の里
訪問調査日	平成 20年 2月 19日
評価確定日	平成 20年 4月 1日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3071000453
法人名	医療法人 敬英会
事業所名	グループホーム幸楽の里
所在地	橋本市隅田町山内1919 (電話) 0736-38-1165

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポート和歌山		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2階		
訪問調査日	平成20年 2月 19日	評価確定日	平成20年 4月 1日

【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	2 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 14.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 1日 500円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50, 000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(平成19年12月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおはぎ内科医院 小柳歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな環境に恵まれた「グループホーム幸楽の里」は橋本市の北部に位置しており、母体となる医療法人敬英会の介護老人保健施設、通所介護などと一緒に地域のセンターとしての役割を担っている。玄関の壁には入居者から聞き取った地域に伝わる「数え歌」が額に入れて飾られており、常に入居者から教わり学ぶ姿勢が感じ取れる。木造を基調とした室内には家庭的な雰囲気が工夫され、日当たりの良い大きな窓際のソファで入居者が心地良さそうに居眠りしている風景も見られる。また職員のかかわりはさりげなく配慮されており、落ち着いた環境の中でゆっくりと時間が流れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	より良いケアに向けて日々の業務の中で話し合い取り組んでいる。来訪者のためにグループホームの存在を分かりやすくする表示の工夫など、できるところから改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全体で話し合ったことを職員全員が一つひとつ取組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族、市役所職員、地域住民等のメンバーで構成されており、運動会などの催しについても話し合っている。しかし、半年に一回程度の開催であり、今後回数を増していくことが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月一回グループホームだよりを発行しホームでの様子をわかりやすく伝えている。意見交換の場として家族会を設置しており、さらに常に家族からの声が届くよう配慮し話し合える関係を築いている。苦情などは職員全体で受け止め改善策を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	山間部に位置しているため日常的な交流は難しいが、地域の年中行事への参加は積極的に行われている。幼稚園児の訪問を受けることもあり、法人の催しなどを通して地域との交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての意義を職員全体で話し合い、運営上の方針や目標などを具体化した理念を作り上げているが地域との繋がりに関しては具体化されていない。	○	安心した生活を支える理念には地域との繋がり是不可欠であることを踏まえ具体化した理念が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に業務の中で確認しあい共有できるように努めている。確認のため職員トイレに貼り出すなど、スタッフ一人ひとりが意識を持って取り組めるように工夫している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の運動会に参加したり、地域の幼稚園や老人クラブとの交流を持ち、クリスマス会など年中行事に招き、共に楽しむ機会を持つようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で評価に取り組み、皆で意見を出しあい自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は半年に一回の開催となっている。本人、家族、市役所職員、地域住民等が参加し皆の意見を活かしている。運動会やクリスマス会などの行事についての話し合いもしている。	○	より地域の理解や支援をえるためには開催回数を増やすことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来する機会が少ないが、見学会の開催時などに機会を見つけては働きかけ、関係作りに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度「グループホームだより」を発行している。面会時に暮らしぶりや健康状態を報告し、また個別に電話で様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて意見交換の場を作っている。また苦情に対しては職員に伝え、問題に取り組んでいる。日ごろから何でも言ってもらえる雰囲気作りに努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりには入居者、家族に不安を与えないように努力し、ダメージは抑えられているが、馴染みの関係を重視しているので離職による職員の交代は事業所としても課題となっている。	○	職員の異動や離職を最小限に抑えるため、勤務の条件や体制を見直し方針を立てることが求められる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で行われている月に一度の勉強会は別の日に同じ内容を再度行い全職員が参加できるよう配慮されているが、外部の研修を受ける機会は少ない。	○	外部研修の機会を確保するため、勤務体制を見直すとともに、年間の研修計画をたて、研修を位置づけていく工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修や地域ケア会議に参加し事業者同士協働しながら質の向上を計っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用が始まる前に、本人、家族に十分説明している。事前に訪問してもらい実際に昼食を一緒に食べるなどの機会を設け、本人が納得し、安心できるよう図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は料理や歌など入居者から教わり学ぶ姿勢が見られる。数え歌を時々みなで唄ったり、一緒に調理や盛り付けを行い、自然な形で支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さりげない会話の中から本人の思いや希望を汲み取るように努めている。	○	職員全員で共有できる記録の工夫が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との話し合いや会議での話し合いを元にケアプランを作成し、短期目標を日々の業務日誌のなかに組込まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員全体で情報を確認し入居者の変化に応じて計画を見直し、現状に即して項目の変更や追加を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他のサービスと連携し、長期入院後の受け入れや自宅に戻った後の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からの主治医に定期的に往診にきてもらっている。また母体が歯科医であるため、口腔ケアの充実を計り、食事前には嚥下体操を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の変化に合わせて家族と話し合い、医療との連携体制を確認して、開設後一人の看取り経験を持つ。今後、入居者の重度化に向けて終末期のあり方について不安を抱いている職員もいる。	○	職員の不安を無くすため、本人、家族の意向を踏まえ、チームでできる最大の支援方法を話し合い、確認し取り組む事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	区民の会議等にグループホーム便りを使用するときには、家族の了解を得ている。プライバシーへの配慮が意識付けられるように会議で利用者に対する言葉かけについて話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、食事時間をずらしたりしている。時間のゆるす限りドライブや買い物に出かけたりして、希望に添えるように対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に笑顔で調理を楽しむ場面があり、また同じテーブルで、会話しながら同じものを一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴を基本としているが、入居者の希望やその時々タイミングにあわせ柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生会や季節行事の料理を大切に、食に重点を置いている。また食事のあと片付けや洗濯物をたたむなど入居者の負担にならないよう配慮しながら自然な形で行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	二日に一度の買い物や、入居者の希望に合わせて家族も交えて出かけることもある。また天気の良い日には、テーブルを外に出し昼食を摂る事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関は施錠されていない。ユニットの出入り口、玄関のドアに音色の違う鈴をつけるなどの工夫をしながら、さりげなく見守り、一緒について行き、声かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の非難訓練を行っている。また災害時にそなえ、食料や飲料水、ガスコンロなど確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録に残し、職員が情報を共有している。刻み食やミキサー食、食材の工夫をし毎食事に写真を撮り、色合いやバランスをチェックしている。また便秘や太りすぎに配慮が必要な入居者には寒天を毎日食べるようにし、良い効果が現れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各食事テーブルに季節の花を活けたり、ゆず風呂や菖蒲湯をおこなっている。大きな窓の前にソファを置き、暖かな日差しの中で利用者が気持ちよくとうとされている場面がみられた。空間が広く家具や調度品はあまり無い。	○	フローアの壁面の飾りやソファ以外の家具の配置など、家庭的な雰囲気と季節感を意識的に作り出す工夫を利用者とともに採り入れることが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた鏡台やタンス、装飾品などを持ち込み、安心して生活できるように配慮されている。		